

マチュピチュ・天野博物館・*South American Handbook*

文学部教授 青木 芳夫



熱帯雲霧林に囲まれ海拔2430メートルの山頂に浮かぶ空中都市マチュピチュ（「マチュピチュ歴史保護区」）は、日本のだれもが行きたい世界遺産ナンバー・ワンに輝き続けている。その秘境さにもかかわらず、もう一つの世界遺産である「ク

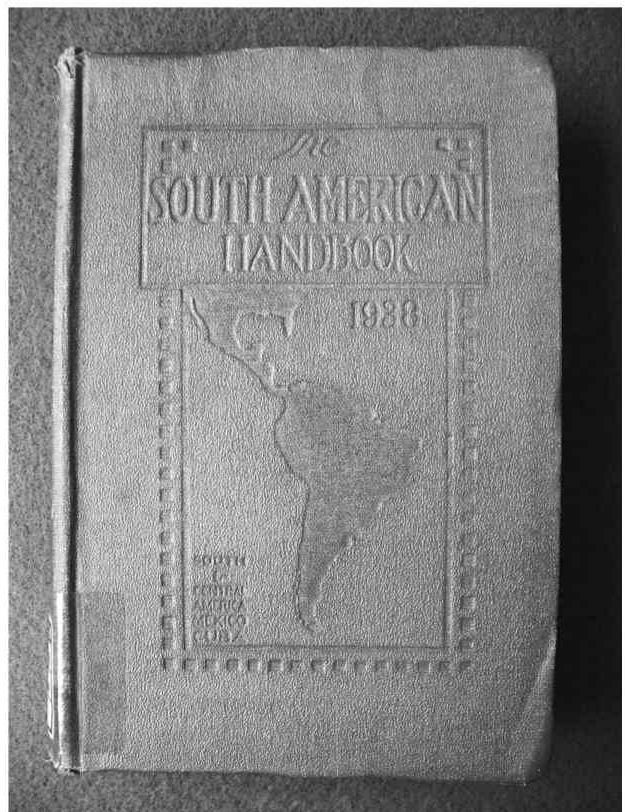
スコ市街」から高山鉄道とバスを乗り継げば日帰りで観光することができるし、いま流行のインカ道トレッキングにしても体力的に困難かというところでもなく、ほとんどだれもが楽しむことができるコースもある。そのような秘境度と大衆性との間の落差もまた、マチュピチュの人気の秘密なのかもしれない。その点では、日本の白川郷とよく似ている。

ところで、今年の6月23日から7月1日までニュージーランドのクライストチャーチで第31回世界遺産委員会が開催された。日本では石見銀山遺跡が世界遺産に登録されるか延期されるかどうか話題になったが、じつはマチュピチュ遺跡もまた議論される可能性があった。というのは、近年における地滑りや山火事の発生に加え、ふもとの町であるアグアスカリエンテスでの無計画な都市開発や、橋の新設、そして過剰な観光開発を重く見たユネスコが今年4月にすでに現地に専門調査団を派遣しており、その報告書が提出される手筈となっていたからである。結局危機遺産に指定されることはなかったが、マチュピチュ遺跡や観光が岐路に立っていることは、だれにも否定できないだろう。

1911年にアメリカのハイラム・ビンガムによりマチュピチュが「発見」され、マチュピチュは世界中で一躍注目されるようになるが、ペルー南部のプーノ県の農村に生まれ、やがてクスコ市で活躍するようになる市井の一写真家マルティン・チャンピもまた注目した一人だった。彼が1925年に撮影したマチュ

ピチュは草木が茫茫としており、遺跡というよりも「廃墟」の趣きがある。彼の写真をホームページ（www.museoamano.com）に掲載しているペルー・リマ市の天野博物館の創立者である故天野芳太郎氏は1935年にマチュピチュを訪れたという。だから、最初の日本人だったかもしれない。

その当時のマチュピチュの旅がどんな形をしていたのかを伝えてくれる史料を、奈良大学の図書館で偶然見つけたことがある。1938年版の *South American Handbook*（分類番号：290.9/D46）という、1937年にイギリスから出版された観光ガイドブックである。総ページ数698ページ、赤地に金色で刻印された布製の表紙をしたB6サイズのポケットブックはいかにも頑丈そうで、ラテンアメリカを訪れる旅行者にとってバイブルのような役割を果たしたことだろう。当然まだ船旅の時代であり、ペルー



編（485—519ページ）のはじめには日本郵船会社の太平洋航路の広告が掲載されている。同書によれば、1933年には週1便ながらリマ・クスコ間が空路でつながれたし、リマから飛行機をチャーターすればマチュピチュを上空から眺望することも可能になった。クスコからマチュピチュへは、土曜と水曜の週2回運転していた鉄道で4時間あまり旅をし、そこからさらに1時間半ほど、ふもとまで移動したあとラバの背に揺られて山頂を目指したらしい。だから、野営覚悟でなかったなら、遺跡に着いてもすぐに立ち去るしかなく、クスコにはきっと疲労困憊のていでたどり着いたのだろう。

このように、同書がペルーとくにクスコやマチュピチュのインカ遺跡の意義や観光的価値に早くから着目していたことも興味深かったが、私にとってもっと意外だったのは、世界のあちこちで戦争の足音が聞こえ始めていた頃に、このようなガイドブックが公称1万人もの読者に支えられ、また英語圏をはじめとする多くの人々が同書を携えラテンアメリカ各地を観光や商用で旅していたことのほうなのである。

最後に、この1938年版は、故藤岡謙二郎先生が奈良大学に寄贈された「藤岡文庫」の中の一冊であることを記すとともに、感謝したい。



図書館雑記

文学研究科文化財史料学専攻 M2 酒井真志



皆さんこんにちわ。院生アルバイトの酒井真志です。私はレポートや発表、卒業論文の作成などで、学部のごころより図書館を利用してきました。そんな私がこの奈良大学図書館の利用するとちょっとお得なサービスの数々を紹介します。

皆さんは探している本がないときはどうしてますか？本棚を虱潰し大作戦なさる猛者もいらっしゃいますが、大抵は検索機を使って探しているのではないのでしょうか。え、本が貸出中でない。そんな時は「予約」というサービスがあります。「予約」とは次に自分がその本を借りる約束をするものです。すぐに借りることはできませんが確実に借りることができます、多分…。え、話が違う？そうなんです。実は期日になっても本を返していただけない方がいるのです。なかには数ヶ月も。長期延滞は他の皆に迷惑が掛かるし、延滞した日数分、自分自身も「貸出停止」という地獄のお仕置きが待っています。これをくらうと停止期間中は、レポートだろうが、発表だろうが本が借りられなくなり、館内でしか本を利用できなくなります。大変危険ですから皆さんは真似しないでくださいね。

なにに、そもそも欲しい本が奈良大の図書館に無い。ふむ、そんな時の強い味方が「他館文献複写」と「他館資料貸借」です。「他館文献複写」は、他所の本の一部をコピーして郵送してもらうサービス。「他館資料貸借」は本そのものを郵送してもらうサービスです。本を郵送してもらった場合は、館内での利用になりますのでご注意ください。また、本やコピーが手元に届くまでには数日かかります。つまり、明日には欲しい、すぐに欲しい、という要望にはお応えできません。悪しからずご了承ください。

そういえば最近になってWebから本の「貸出延長」ができるようになりました。これを利用すれば延長手続きのためにわざわざ、図書館まで来なくてもよくなったのです。ただし「貸出延長」の条件は変わっていませんのでそこのところ宜しく。

今回紹介したもの以外にも、便利なサービスが幾つもあります。分からないことがありましたら、いつでも2階貸出カウンター、レファレンスカウンターまで遠慮なくお越しください。親切なお兄さん、お姉さんが懇切丁寧に対応いたします。復のご来訪心よりお待ちしております。



電子ジャーナルの利用について

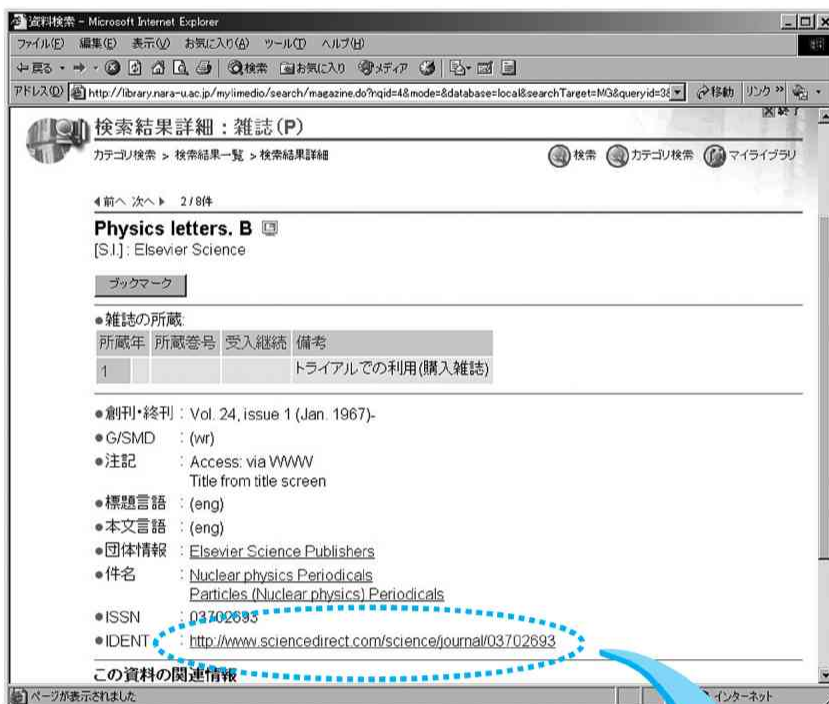
(図書館)

図書館では、平成19年5月から平成20年3月までの間、電子ジャーナル (EJ) トライアル・サービスを提供することになりました。今回のトライアルは Blackwell Publishing 社及び Elsevier Science Publishers 社からの提案を受けたもので、前記の期間中は、両社が出版している電子ジャーナル199タイトルの最新号及び直近数年分のバックナンバー全文を無料で閲覧することができます。

【利用方法】

図書館 OPAC (<http://library.nara-u.ac.jp/mylimedio/search/search-input.do>) を開く。

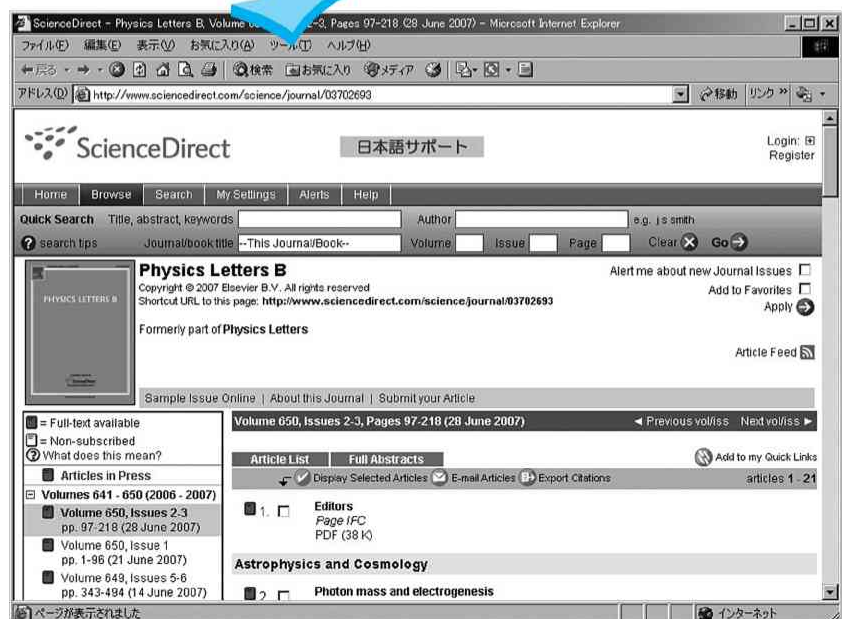
- ①「カテゴリ検索」、引き続き「電子ジャーナル一覧」をクリックするとアルファベット順にタイトルが表示される。読みたいもののタイトルをクリックする。
- ②又は、タイトルを直接入力して「検索」ボタンをクリックする。



①②どちらかの方法で雑誌「詳細」画面を開く。(EJはタイトルの後にアイコン(ディスプレイのマーク)が表示されています。)

③「IDENT」項目のリンクをクリックすると、閲覧可能な画面に切り替わります。

※学内のインターネット接続環境があれば、どこでも使用可能ですので、図書館 OPAC トップページからご利用ください。



図書館統計（平成19年3月末現在）

	平成17年度 (2005)	前年度比 (%)	平成18年度 (2006)	前年度比 (%)
図書所蔵数	356,564	104.1%	368,144	103.2%
和書	282,310	104.9%	292,745	103.7%
洋書	38,101	101.3%	38,871	102.0%
中国書	36,153	101.2%	36,528	101.0%
雑誌所蔵タイトル数	5,538	104.8%	5,845	105.5%
開館日数	294	116.2%	284	96.6%
貸出総数	47,328	115.1%	44,707	94.5%
相互利用（依頼数）	1,053	156.5%	810	76.9%
相互利用（受付数）	1,278	96.5%	1,312	102.7%



所蔵資料数

図書は11,580冊増加、雑誌は307タイトル増加と、所蔵資料数は着実に増え続けています。18年度では、都道府県史・県庁所在地及び近畿地方の市町村史の補充を重点的に行いました。今年度も引き続き地方史の充実を図る予定です。

開館日数・貸出日数

通信教育部スクーリング及び蔵書点検に伴う休館スケジュールの関係で、開館日数は前年度に比べ10日減となりました。貸出冊数は前年度比5%余り減少しました。開館日数減の影響もありますが、学生一人あたり（通信教育部生を除く）の貸出数も年間16.2冊から15.5冊へと減少しています。

相互協力利用

当館から他館への「依頼数」は前年度に大幅増加したため、その反動で大きく減少しました。一方、他からの依頼を受け付けた「受付数」は増加しました。依頼と受付を併せた合計数を見ますと、平成15年度以降は1,112件、1,997件、2,331件、2,122件と増加傾向は続いています。

後記

▷「みささぎ」第6号をお届けいたします。まずは原稿をご執筆頂きました青木先生、大学院生の酒井さんに心よりお礼を申し上げます。▷当館は大きな図書館ではありませんが、学生一人あたりの蔵書数・受入数は比較的多く、『大学ランキング』（朝日新聞社）では上位にランクされています（2007年版50位、2008年版22位）。貸出冊数も増加し続けてきましたが、昨年度、減少したのは残念なことです。▷今後とも「学生購入希望図書」制度や「意見箱」などを通じ、利用者の皆さんの要望に応えるべく努めていきます。特に購入希望図書については、他の人にも読んで欲しい本や、奈良大学として備え付けるべき資料を推薦する、というようなつもりで、提案して頂ければと考えています。▷次号は来年1月頃刊行予定です。お楽しみに（編集担当）。

発行：平成19年7月20日

編集：奈良大学図書館 奈良市山陵町1500